

マーケットの動き (2021年11月8日～11月12日)

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。週の前半は米国雇用統計の堅調な結果と、次期FRB(米国連邦準備制度理事会)議長の二番手候補に挙げられるブレイナード氏就任の可能性を織り込み、金利低下となりましたが、週の後半は市場予想を上回る10月の米国CPI(消費者物価指数)上昇を受けて、米国金利は上昇しました。

投資環境見通し (2021年11月)

長期金利は、米国、欧州（ドイツ）とも、短期的にはレンジ内でやや低下

米国：インフレ見通しについては高止まりする可能性があります、FRB（米国連邦準備制度理事会）が政策目標とする最大雇用の達成までには時間を要するとみられます。長期金利は当面の利上げ見通しをすでに相当程度織り込んだとみられ、短期的にはレンジ内でやや低下する可能性があります、その後は景気動向を確認しつつ緩やかに上昇すると予想しています。

欧州：欧州（ドイツ）長期金利の足元の水準は、ECB（欧州中央銀行）による金融政策の緩和姿勢と乖離があるとみています。長期金利は米国市場と同様、短期的にはレンジ内でやや低下する可能性があります、その後は景気動向を確認しつつ緩やかに上昇すると予想しています。

	11月12日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	1.58	0.13	0.00	▲0.12	0.69
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース(騰落率)	516.51	▲0.61%	0.64%	2.94%	4.84%

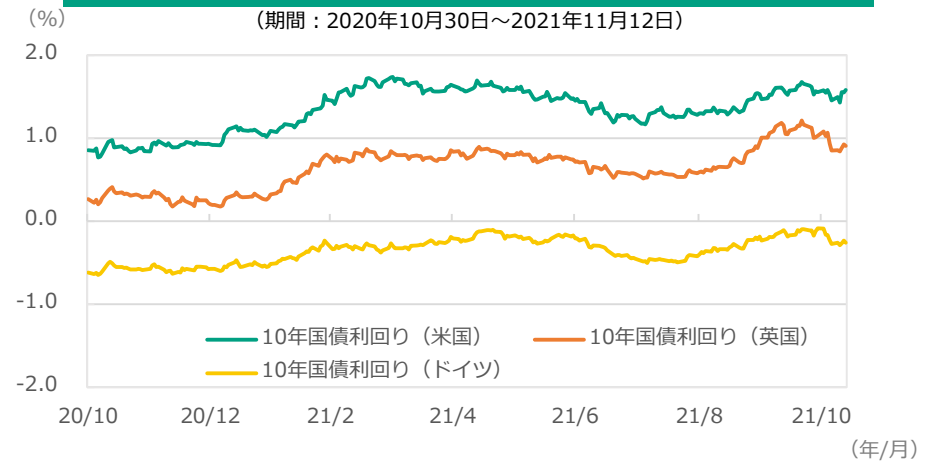
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202111_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移



FTSE世界国債インデックスの推移



※2020年10月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成